

## 会議議事録

会議名	第1回学校関係者評価委員会	
開催日時	2017年6月25日(日) 10:00~11:30	
開催場所	彰栄リハビリテーション専門学校 会議室	
参加委員	参加者9名	工藤秀機、佐藤太智郎、原島宏明、林導典、浦田祐美子 帆苺猛、山下輝彦、芦野裕一、長原将士
	欠席者0名	
配付資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2017年度学校関係者評価委員会委員名簿</li> <li>2. 2016年度自己点検及び自己評価報告書</li> <li>3. 2017年度学生便覧及び講義概要</li> </ol>	
会議録	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 校長挨拶(山下) 開会の挨拶。</li> <li>2. 理事長挨拶(帆苺) 帆苺猛理事長から挨拶。</li> <li>3. 委員長挨拶(工藤) 工藤秀機先生から挨拶。</li> <li>4. 今年度の報告(山下) <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 2017年度新入生については、昼間部は社会人の受験者が増加し、前年度同様に定員を確保することができた。夜間部は受験者が減少傾向を示し、今後の課題となっている。</li> <li>(2) 教育全般については、かねてより本校の学生は基礎学力のレベルにばらつきが多く、3年制専門学校として教育のターゲットを絞ることが難しいという課題を抱えていた。作業療法士という社会的知性の高さが求められる職業的特性を考慮し、今後減少する高校新卒者より転職を志向する社会人にターゲットを絞る広報戦略に転換することにより、本校の新入生は社会人が増加した。さらに専門実践教育訓練給付金制度に後押しされ、前年度以上に社会人の受験者が増加し、ある程度の選抜が可能となった。また、社会人の真剣さが高校新卒者へもよい刺激となり、学習能力がレベルアップしていると感じている。その反面社会人が多くなることは、学校や教職員への批判力が増すことを意味し、今後その点への配慮も必要と思われる。一方、このところ継続してきた教育改革すなわち進級規程の改正、コアカリキュラムの設定、到達目標の提示及び日本語リテラシー教育等は、ある程度実を結びつつあると考えている。その結果、学習能力が低く目的意識が不明確な学生にとって、早めに退学する動機にもなっている。このことは、規程の改正が全面的に提要された前年度の退学者が多いという事態を招いた。しかしこれは学校のレベルアップのため、やむを得ぬ一時的現象であると考えている。今後の退学者については、激</li> </ol> </li> </ol>	

減すると予測している。各学年の学年末の到達目標の達成度に関しては、自己判断では効果が低く、しかるべき判定方法を検討し、本年度から実施する予定である。

(3) 作業療法士の臨床実習については、かねてより多くの課題があると指摘されてきたが、今日でも同様な課題を抱えているといわれている。この問題は本校だけの現象ではなく、学生にとって極めてストレスの多い科目となっている。また退学の理由としても、臨床実習での不合格が多い。本校としては、臨床実習指導者会議で実習指導者とできるだけ意思の疎通を図るよう努めるとともに学生の学力と社会性向上に心掛ける必要があると認識している。

(4) 国家試験については、過去問の系統的学習を中心に、講堂を利用したグループ学習等の新機軸を取り入れ改善を行った。このところ新卒者については90%前後の合格率を残し全国平均は超えているが、本年度以降は一段の向上を期待している。既卒者については本校からの呼びかけに反応せず、受験だけを行う者がほとんどで今後の課題となっている。

(5) 就職については、相変わらず求人票が多く、前年度も国家試験合格者全員が、正規職員として採用された。

#### 5. 2016年度自己点検及び自己評価について（山下）

2016年度自己点検及び自己評価（案）が配付され、内容について次回の委員会までに確認を行ってもらい、第2回学校関係者評価委員会において協議することが説明された。

#### 6. 次回の日程について（長原）

次回の日程が提案され、第2回学校関係者評価委員会を2017年8月20日（日）10:00～11:30にて開催することが決定した。

また、詳細については、後日連絡することが確認された。

#### 7. 意見交換

(1) 作業療法士の認知度を上げるために、「認知症の治療をする人」

「在宅医療」「発達障害」のキーワードを入れた紹介ページをホームページに追加してはどうか。

(2) 臨床実習後に、うつになる傾向の学生がいるため、その対応について検討が必要ではないか。

(3) 介護・作業療法士助手のアルバイトを通して、患者さんとうまくコミュニケーションを取れるようにするのが良いのではないか。

(4) 臨床実習において、レポート等が多く本来の目的を果たせていない学生が多いため、内容を含め在り方について検討が必要ではないか。

(5) 実習指導者と学生とのコミュニケーションがうまくいかないため、ストレスとなっている学生も多いため、対応について検討が必要ではないか。

#### 8. 閉会